

「近くにあった橋」

かしばのはし

タウンウォッチャー 楠本 績(穴虫)



竹田川にかかる「ウジロ橋」

Y2Kと、とかく喧騒された平成の辰年早々のある日、大和高田市に住む友人が、独り身となった気楽さからか、近くに居りながらはじめて遊びに来るとの電話があった。

「近鉄大阪線一上駅東側最初の踏切を、北へ越えてまっすぐ進み、二番目の道を西に入ると十軒ばかりの家があり、その三軒目の家」と、古稀になる歳とはいえないまだに元気で車を乗り回している友人に伝えた。

それから三時間程過ぎた。しかし一向に姿が見えず、比較的狭い道路で間違っても起きたのではと心配していると電話が入った。「竹田川のうじろ橋まで来ているがどう行けばいいのか？」とのことである。竹田川は分かるが「うじろ橋」はどうしても思い付かない。香芝に来て二十五年近くになる身にとっては情けない話であるが、どうしようもなく、近隣の様子を聞けば造成中の中和幹線道路の近くらしく早速行ってみた。

橋の欄干は、鉄パイプを組み立てたようではあるが、確かに竹田川を南北にまたがる橋梁であり、橋の名前も南側に「ウ

ジロ橋」とカタカナで書かれ、北側にはひらがなで「うじろはし」と名付けられていた。この橋は、土曜日にはいつも「リキ」我が家の一員である犬の名前」を連れて、夕暮れには散歩にいくコースであるのに、今まで全然気にも止めなかったところであつた。

香芝市の都市地図には、「穴虫橋」は記名されているが、東側の橋の記名はされていなかった。しかし、平成三年頃の香芝町の都市地図には、「穴虫大橋」に続いて「うじろ橋」と記されていた。その後もなんとなく気になったので、それとなく自分なりに調べてもみていたが、香芝市の広報かしばお知らせ版(平成十二年一月五日第三三六号)の中に記載されていた都市地図によれば、「穴虫大橋」の東側に「ウジロ橋」と記載されていた。

橋の名前は分かったが、「うじろはし」とはどういうところからきているのかと、いやに気がかりになってきた。通常は地名なり、その土地の由緒等に因っているのが多いように思われるが、「うじろはし」とはどんな意があるのかいろいろと各種の辞典等をあさってみたが、単語・熟語と

しては見当たらなかった。やむを得ず、自分なりのつたない想像(創造)を駆使する事にした。

「うじろ」とは、単純に考えて「うしろ」の訛った言葉ではとも考えたが、どうもいまいち古代の匂いのある香芝では味気がなく「うじ」と、「ろ」を分けてみることにした。「うじ」で一番ピッタリではと見えたのは「氏」であつた。その中の語釈(広辞苑)でも【古代、氏族に擬制しながら実は祭祀・居住地・官職などを通じて結合した政治的集団。その内部は姓(かばね)を異にする家族群に分かれ、上級の姓を持つ家族群が下級の姓の家族群を支配し、最下層には部民(べのたみ)及び奴隷(ぬひ)がある。】であるが、今一つ仏教語の「有事」も捨て難く【一切の存在(有)を時間の相において見、今ここに現前している存在のあり方こそ絶対である。】と説いている。

「ろ」は、「路」【事の筋みち(理路)】で、理屈が通るよつに思えた。しかしなんとなくここまで来て和名抄(倭名類聚抄)や大和物語の面からも、「ウジロ」とはと追つてみる必要を感じた次第である。